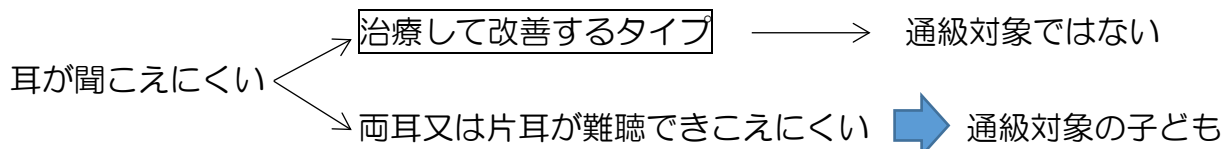


2 きこえの教室（難聴学級）の指導

(1) きこえの教室の対象となる子どもは



(2) 聴覚障がいとは

聴覚障害とは、身の周りの音や話し言葉が聞こえにくかったり、ほとんど聞こえなかったりする状態をいう。

(文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 平成 25 年 10 月)

聴覚障がいの基準

- ★30dB(デシベル)以上の音が聞こえない
- ★片耳が聞こえない

(3) きこえの教室での指導について

聴覚障がいの子どもたちに対する個別学習やグループ学習だけでなく、保護者や学級担任への支援および在籍学級の子どもたちへの障がい理解のための授業等、幅広い取組を行います。

きこえにくさを補うには補聴器やFM補聴システムを使います。

しかし、補聴器やFM補聴システムを使っても・・・



自尊心の低下や不登校の原因になることがあります。

これらの困難を乗り越えるために

上記のような困難さを軽減・改善するための教育的支援をします。通常は在籍学級で学校生活を送り、週1~2回きこえの教室に通級して学習します。

① しっかり聴覚管理

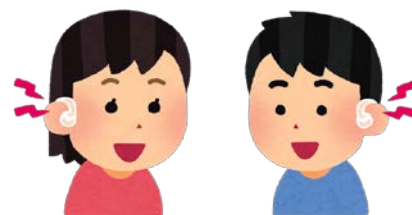
その子のきこえの特徴を担当者が理解しましょう。

◇聴力検査や語音弁別検査などを通して子どものきこえの様子を把握し、本人や保護者と共通理解します。

- ・聴力のタイプは？ ・音をどのようにききとっているか？
- ・どれくらいの音の大きさが正確にききとりやすいのか？

◇耳鼻科医の受診の状況と使用している補聴器をチェックします。

- ・聴力に変動はないか？
- ・FM補聴システムを使っているか？
- ・補聴器がその子の聴力に合っているか？



◇補聴器は人とのコミュニケーションをとるために必要なものであり、自分にとって大切なものだと
いうことに気づかせます。また、次のことを身に付けるための学習もします。

- ・電池切れに気づいて対応する。
- ・イヤーマールドを清潔に保つ。
- ・破損しないように大事に扱う。
- ・汗などによる故障を予防する。

※補聴器を外さなければいけない場面
(プール、宿泊での入浴時、就寝中等)の対
応についても具体的に考える。

補聴器とFM補聴システム

一般的な耳かけ式補聴器



一般的な補聴器では、マイクで拾われた肉声や音を補聴器内の
のンプで音を調整・増幅し、接続チューブからイヤーマール
ドを通して耳に届けます。きこえ方は
それぞれの聴力タイプや聴力レベルに
よって異なるので、補聴器も一人ひと
りの「きこえ」に合わせて調整されて
います。しかし、補聴器の音は健聴者
が耳できいている声や音とは異なりま
す。人の話し声だけが増幅されるのでは
なく、全ての音が同じ音
量で一気に耳に届いてしまいます。聴覚障
がい者がいろいろな音
の中でききとるべき音を選別することの
大変さは想像以上です。

人工内耳 (外部の様子)

FM補聴システムとは

FM電波(169MHz帯)を使って話し手の声を聞き手に直接届ける補聴援助システムです。話し手に送信機とマイクを付けてもらい、聞き手はその電波の受信機能の付いた補聴器や人工内耳でFM電波によって送られた話し手の声をききとります。離れていても周りの騒音に邪魔されずに話し手の声をきくことができます。

FMマイク

送信機

送信機とマイク
が一体化した
ロジャーペン

マイク



② 残された聴力を生かした言語力の育成



それぞれのきこえ方の特性やことばの成長の課題に応じて、『聴く』『話す』『読む』『書く』といった基礎的な言語学習を行います。

言語思考力の育成

聴く

話す

読む

書く

正しい発音・イントネーション・リズムの習得

コミュニケーション意欲・マナーの育成

耳からの情報収集を補う。

言いたいことを表現する手段の一つ。

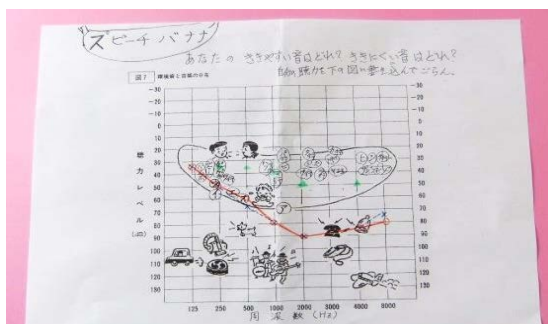
③ 聴覚障がい受容と障がい認識 及び、障がいを補うための工夫を実践する力の育成

《障がい受容と認識》



ぼくは、補聴器は必要ないよ。でもきき間違いが多いんだ。

わたしは補聴器をつけても相手が何と言っているのかよくきこえないわ。



聴覚障がいの受容と認識学習
『ぼくのきこえはこんなふう』

きこえにくい場面ではどうしたらよいのか、一緒に考えます。



高い音がよくきこえないから、きき分けられない音があるの。



ぼくは低い音がきこえ難いな。



片方の耳がきこえないから大事なことをきき落とすことも多いの。音のする方向が分からない時があるな。

④ 自尊心の育成とコミュニケーション意欲と能力の向上

抱きやすいマイナスイメージや不安

みんなは今何を笑っているの?

私の悪口を言ってるんじゃないのかなあ。

勉強がよく分からない。

どうせ私なんか…。

きこえないまま大人になっても大丈夫なの?

無視したわけじゃないのに…。

自分にはできない。



グループ学習の様子

聴覚障がいは自分のせいではない。
聴覚障がいを過大に恐れない。
聴覚障がいがある自分を卑下しない。

自尊心の育成

自分の学級でも、やってみようかな。

きこえの教室の学級集会で 司会やゲーム系の体験

ロールモデルとの出会い

(聴覚障がいを持つ先輩や社会人となった大人)

聴覚障がいがあっても大丈夫なんだね。

あんな大人になりたいな。

⑤ 聴覚障がいの子どもたちに必要な配慮・環境調整

教室では

- ・机やいすを移動させる音は少しでも小さくする。
- ・情報は視覚的の手がかりを多用する。
- ・話し手の顔や口元をはっきり見せる。
- ・FM補聴システムの使用に協力する。
- ・ききとりテスト等の実施時は聴力に応じて配慮する。
- ・放送の音が聞き取れないので、特に緊急時の対応について考えておく。
- ・市の情報補償ボランティアとの連携(手話・要約筆記ボランティア)。

進学

- ・聴覚障がいのために、受験時に不利が生じることがないように配慮について、情報を提供する。
- ・公立高等学校入学者選抜の受検時に、特別配慮申請もできることを保護者や担任に伝える。

連携

- ・補聴器の適切な装用や調整・聴力の管理については、必要に応じて医療機関や聾学校、補聴器専門店等との連携を図る。
- ・在籍学級担任ときこえの教室担当者が、連絡会を通して共通理解を図る。連絡ノートや電話で情報を伝え合う。

聴覚障がい子どもたちが、通常学級（在籍学級）でより安心して過ごせるよう、通常学級の他の子どもたちに向けて聴覚障がい認識・理解のための学習を行うこともあります。

この取組は、お互いの存在を認め合い、個々を大切にする学級づくりの内容でもあるので、本人の気持ちを大切に考え、どのような内容にするか、本人及び学級担任と協力しながらすすめることが重要になります。



聴覚障がい理解学習
『きこえないって
どういうこと？』

(3) きこえの教室の指導例

小学校（45分）		中学校（90分）	
時間	活動内容	時間	活動内容
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 ・めあてや活動の提示 ・宿題の日記を読み、正しい構文や表現を学ぶ。 	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 ・自由会話 (クラスの状況や学年により進路の方針などの内容を話す。)
30分	<ul style="list-style-type: none"> ・ききとりの学習 単音や課題の音とのきき比べをする。担当者の口元に注目させる。言葉をきき取って書く。 ・発音指導 誤って発音している音の構音学習をし、正しい発音が身につくように練習する。 ・言語活動 絵カードや課題を書いた短冊などを使って文章を作る活動等を行う。課題によっては、ソーシャルスキルを含んだ活動。 ・聴覚障がい認識 聴覚ガイダンスを受け、自身の聴力や耳の状況などを知る。 聴覚障がいで困っていることなどを話し合う。 	75分	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動 例) 国語 古典の意味や故事成語などを調べ、活用する。 日本語クイズ など 例) 英語 英語のことわざの意味を要約し、日本語につなげていく。 英単語のパズル など ・教科補充（生徒の状況に応じて） ・学年により進路指導 面接の仕方や答え方など、ロールプレイする。 ※聴力検査（定期的）
5分	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめ 	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返り ・次回予告